妊娠中・授乳中に使用できる薬のご案内

この資料は、妊娠中・授乳中に**比較的安全とされるお薬の一例**と、**相談窓口のご案内**をまとめたものです。

◆ よく使われる薬の一例（症状別）

症状・用途	薬の種類	商品名の例（一般名）	補足事項
解熱・鎮痛	アセトアミノフェン	カロナール、タイレノール	
鼻水・鼻づまり	クロルフェニラミン	ポララミン	必要時使用
咳	デキストロメトルファン	メジコン、アストミン	眠気少なめ
胃酸逆流・胸やけ	ファモチジン（H2 ブロッカー）	ガスターなど	PPI は必要時に医師判断で使用
便秘	酸化マグネシウム、ラクツロース	マグミット、ラグノスなど	
下痢	ビオスリー	ビオスリー、ラックビーなど	感染性でない場合
湿疹・かゆみ	ステロイド外用薬	ロコイド、リンデロンなど	
花粉症・鼻炎	ロラタジン、点鼻・点眼	クラリチン	
鉄欠乏性貧血	鉄剤	フェロミア、インクレミン、 リオナなど	吐き気時は別製剤も
つわり	ビタミン B6（ピリドキシン）	ピドキサール	重症悪阻は点滴加療

◆ 有益性投与とは？

お薬には、妊娠中の安全性が完全には確立していないものの、**お薬を使うことで得られる効果（＝有益性）が、リスクよりも大きいと判断される場合**に使用されるものがあります。

これを「**有益性投与（治療上の必要性からの投与）**」と呼びます。

- 例：喘息治療薬、抗うつ薬、抗けいれん薬など

このようなお薬の使用については、**医療機関の医師が個別の病状をふまえたうえで判断します。

☑ **処方された医療機関で「有益性投与」と説明されたが、服用してよいか迷う場合には、まずは処方薬局の薬剤師にご確認ください。**
薬剤師は、薬の安全性情報を確認し、説明を行います。

◆ 妊娠中のお薬相談窓口

妊娠中・授乳中のお薬に不安がある方は、下記の専門相談窓口でもご相談いただけます。

国立成育医療研究センター　　妊娠と薬情報センター

- 電話：03-5494-7845
- 受付時間：月～金曜日 9:00～17:00（祝日・年末年始除く）
- Web サイト：https://www.ncchd.go.jp/kusuri/　　相談無料　※匿名での相談も可能です